



今後の連携について確認した両市の関係者

インドネシア共和国プルバリंगा市公式訪問団 9月15日  
**友好連携に向け本市を親善訪問**

インドネシア共和国プルバリंगा市から市長ら6人が来訪しました。訪問団は、市内のインドネシア人技能実習生の受け入れ企業などを視察。今後は、外国人技能実習生制度を活用した人材開発のほか、経済・産業、教育・文化などの多角的な分野での連携を検討します。プルバリंगा市長のディア・ハユニン・プラティウィさんは、「両市の友好関係を築き、互いの課題解決につなげたい」と思いを話しました。



煮沸釜に遠野産ホップを投じる安部組組長

一番搾りとれたてホップ生ビール仕込式 9月19日  
**遠野産ホップを全国のファンへ**

発売20周年を迎える同ビールの仕込式がキリンビール仙台工場(末武将信工場長)で開かれました。ビールには収穫後24時間以内に凍結し、細かく砕いた遠野産ホップを使用。今年11月7日(火)から数量限定で全国販売されます。安部純平組長(遠野ホップ農業協同組合)は、「今年もフローラルでみずみずしいホップ。品質も良く、フレッシュな香りを全国のファンへお届けできる」と自信を示しました。



遠野市民バンドニュー・リパティーズと共演した三浦さん

“わ”で奏でる東日本応援コンサート2023 in 遠野 9月23日  
**音楽で復興の“わ”をつなぐ**

東日本大震災からの復興を応援する同コンサート(同実行委員会主催)が市民センター大ホールで開かれ、市内外から約700人が来場しました。歌手の三浦祐太朗さんや遠野・花巻・釜石の高校生、市民バンドなどが歌や演奏を披露。音楽で心をひとつにしました。松田瑞穂さん(遠野高3年)は、「歌も演奏も全てが力強く美しい音色だった。また聞きたい」と満喫した表情を見せました。



ゲームでは副業トラブルに巻き込まれるケースもあり対処法を学んだ

消費者教育金融出前講座「ライフサイクルゲーム」 9月25日  
**将来の人生考える模擬体験**

同講座が遠野緑峰高(高橋堅校長、生徒116人)で開かれ、1年生44人がお金や人生のライフプランについて考えました。第一生命㈱遠野営業所のスタッフを講師に、すごろくゲームで結婚や出産、入退院などを模擬体験。お金の大切さや病気・けがへの必要な備えを学びました。山口寧々さんは、「5年後、10年後などこれからの人生がどうなっていくのか考える機会になった」と講義を振り返りました。

8月27日 淑徳大学「ホップの里魅力体感ツアー」意見交換会  
**地域のリアルを学び、成果を発表**

同意見交換会が市役所本庁舎で開かれ、関係者約20人が出席。市と連携協定を結ぶ淑徳大学(埼玉県)の1年生3人がフィールドワークの成果を発表しました。学生たちは1週間滞在し、ホップの選別や農作業を体験。遠野のなりわいやまちづくりの取り組みを学びました。坂井千慧さん(同大)は、「選別作業の大変さが印象的。シカやクマの食害に悩む地域の実態も知ることができた」と活動を振り返りました。



地域の実情を学び、成果を発表した淑徳大生

8月28日 令和5年度 第25回わたしの主張遠野地区大会  
**日頃の思い、中学生らしく伝える**

同大会は遠野中学校で開かれ、市内中学生8人が日常生活で感じた思いや気持ちを発表しました。菊池璃子さん(遠野東中3年)が最優秀賞を受賞。優秀賞には留場成美さん(同)と菊池倅征さん(遠野中3年)が輝きました。「命の可能性」と題し発表した菊池(璃)さんは、「戦争や犯罪により、命が奪われていることが毎日ニュースで報じられている。でも、価値のない命なんてない」と力強く訴えました。



最優秀賞を受賞した菊池(璃)さん

8月28日 福崎町児童交流事業  
**遠野物語がつなぐ児童交流**

友好都市・福崎町(兵庫県)の小学生15人が本市を訪問しました。3日間の日程で、市総合防災センター▷こども本の森 遠野▷伝承園——などを見学。土淵小の児童とも語り部体験で交流し、遠野物語の世界を堪能しました。宮崎雄大さん(田原小6年)は、「柳田國男と遠野の関係を事前に調べてきた。もっと遠野を知り、いつかカッパにも会ってみたい」と笑顔を見せました。



カッパを捕まえたいと意気込む福崎町の児童

8月29日 空き家等及び古民家の活用推進に向けた連携協定  
**市と古民家再生協会が協定結ぶ**

同協定締結式が市役所本庁舎で開かれ、市と(一社)全国古民家再生協会岩手第一支部(菊池一彦支部長)が、空き家と古民家の利活用に関する協定を結びました。今後は、空き家や古民家の▷発生抑止▷適正管理▷保全・活用——などに連携して取り組みます。菊池支部長は、「空き家や古民家の活用が地域の未来を切り開く鍵。地域のために協力したい」と今後の展望を語りました。



協定書を手握り交す多田市長と菊池支部長(右)